

ぽけっと通信

第 61 号

発行日 令和4年1月20日発行
発行元 社会福祉法人つどいの家
地域生活サポートセンター
「ピボット若林」
仙台市若林区遠見塚 2-16-15
Tel/022-282-4671 Fax/282-4672



昨年 12 月に当法人では実践発表会を開催しました。実践発表会は法人内の各事業所が日々の支援の取り組み等を紹介（動画）する場です。ピボット若林ではある利用者さんのグループホーム入居後の生活を紹介しました。A さんはご家族と暮らしていましたが、ご家族が高齢で自宅での生活が困難となりました。仙台市内のグループホームの受け入れが困難なため、現在市外のグループホームで暮らしています。入居後 1 年が経ちましたが A さんの悪戯はおさまりません。入居当初よりも拡大しています…コンセントカバーを全て外す、他入居者を掴む、床を水浸しにする、居室の戸を外す等々…A さんはどうしてそのような行動に至ってしまうのでしょうか～仙台から離れた場所での不安。伝えたいことを上手く伝えることができない。余暇の過ごし方等々～A さんの行動に対して、グループホームスタッフの方々は根気強く向かい合っています。A さんを担当するピボット若林の相談員は何度も A さんを訪問し、行政・医療等の関係機関と連携しながらサポートを続けています。A さんの行動に対する答えはまだ見つかっていません。

このような出来事は A さんに限らず、想っていることを素直に表現できずに粗暴な行動や暴言に至ってしまうケースは多くあります。わたしたちスタッフは粗暴な行動を止めてほしいと願い、時に「叱る」という方法をとることがあります。わたしも思い当たります。しかしながら、その理由を分かってもらえないままに叱られているとすればどうでしょうか。利用者さんは叱る人の言うことを素直に聞くことは難しいと思われまます。それ故より行動が拡大することもあるでしょう。行動だけに目を向けるのではなく、まずその行動の裏にある利用者さん本人の想いをイメージすることから始めることが大切です。ひとつひとつの行動の意味を紐ときながら、周りのスタッフがみんなで力を出し合いサポートする。このことが行動理解への近道なのかもしれません。A さんへのサポートはまだ始まったばかりです。



（センター長 飯田克也）

オススメ書籍

壁を壊すケア

井手英策編 岩波書店



氣にかけろ。そばにいる。当たり前「ケアし合える街」を取り戻そうと地域に根を張り、人と人をつないだ「創造的壊し屋」たちがいた！常識に敢然と立ち向かった九人の実践家、奮闘の記録。

第 5 章「重い障害のある人が生きる街」 名里晴美著より

障害者施設建設の計画が出された際、一部住民からは「建設反対」の声が上がっていた。何とも言えない緊張感の中「地元説明会」は行われ質疑応答で住民から「施設が出来たら散歩に出ますか？」と、質問が上がった。当時の施設代表者は遠慮がちにでもしっかりと「出たいと思います」と、答えた。その時会場から声が上がった。「どんどん出てきてください」この一言で会場の空気が変わった。地域の活動へ参加、学校との交流等、どんどん施設の外へ出て行くようになり、お互いを理解し学び必要とし合い「ケアし合える街」ができていった。

社会の中にある様々な「壁」を壊すために続けられていく戦いの記録です。福祉の現場で働く人だけでなくたくさんの方に読んでいただきたい一冊です。

（ぴぽっと 佐伯）